

平成 30 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 足 立 広 明

最終学歴	同志社大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学	
取得学位	文学修士	
所属学会	文化史学会、日本西洋史学会、日本西洋古典学会、地中海学会、キリスト教史学会、史学研究会、西洋史研究会、日本オリエント学会、日本ビザンツ学会、ジェンダー史学会	
専門分野	西洋古代末期の社会史	
研究課題	キリスト教巡礼と修道制の成立、古代末期女性史、古代末期の帝国と社会変容など	
授業科目	学部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学通論（後期） ・西洋史概論（後期） ・西洋史特殊講義（後期） ・西洋史講読（通年） 昨年は後期を分担 ・西洋史演習（通年） 同上 ・史学研究法（共同担当）
	大学院修士課程担当科目 （博士前期課程含）	・国際文化財史料学演習 I、西洋史学特殊講義 I
	大学院博士後期課程担当科目	
	通信教育部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋史概論 ・卒業論文
【研究上の特記事項】	学会全国誌に論文が掲載された。国際学会で2度研究発表を行い、コメンテーターも一度務めた。また、全国規模の学会で発表を行った。	
【教育上の特記事項】	ギリシア語とラテン語の自主勉強会を継続している	
【社会的活動】	京都ギリシアローマ美術館の定例講演会の企画・運営を担当	
【学内活動】 (学内職歴を含む)	総合研究所運営委員、世界史入試問題責任者	

研究業績[著書、学術論文等]				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
①神の前に立つ「私」－女性使徒テクラの自己洗礼と自己決定	単	2018年10月	『ジェンダー史学』第14号、5-19頁	一昨年ジェンダー史学会において発表した内容に大幅に書き加えた。女性聖人テクラの在り方をローマ社会の女性指導者の伝統との連続のなかで捉えようとするハイレンの研究をベースに、テクラの場合はイエスに誓う自己決定により伝統から一歩を踏み出したと論じた。
(学会発表)				
①天をみつめる「私」－古代末期の女性と宗教	単	2018年6月	西洋中世学会第10回大会（於：東洋大学）	古代末期の女性たちが神の前で立つ個人としての自己認識をもつ過程を明らかにし、人々の前でそれを慎みの美德とともに示すパフォーマンスによって権威を上昇させたと論じた。
②From Ireland to Japan: The Widening Late Antique World	単	2018年7月	Pacific Partnership in Late Antiquity Conference 2018 University of Auckland	古代末期世界は地中海だけでなく、中央アジアや東アジアをも包括してとらえるべき世界であるとする考えを示した。漢とローマから隋唐とイスラームに至る中間期に西欧や日本といった周辺諸国が登場し、キリスト教、イスラーム、仏教が確立したが、それらが相関関係を有するものであると示唆した。
③Ego before God: Women and Religion in Late Antiquity	単	2018年9月	Asia-Pacific Early Christian Studies Society 12th Annual Conference (Okayama University)	女性巡礼エゲリアが「私」という表現を行うことを可能とさせたテクラ信仰について、テクラが神の前で自らに洗礼を施し、新しい自己を獲得できた聖人であることが背景にあると論じた。
(その他) 国際学会のコメントーター				
①シンポジウムWomen in Christianity (キリスト教における女性) のコメントーター	共	2018年10月	シンポジウムWomen in Christianity (キリスト教における女性) : 岡山大学	フランスのビザンツ学者Vassa Conticello-Kontoumaはじめ、海老原晴香、阿部善彦、鶴岡雅勇各氏による中世世界の女性と信仰についての報告にコメントを加えた。